

2017 年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—法学研究科—

法学研究科長 鋤本豊博

授業評価の目的は、授業の質を高めて教育の改善を図ることにあり、各教員はアンケート結果を授業改善につながる資料として活用することが期待されている。しかし、今回の集計結果も、「予習または復習をよくした」という設問 14 がここ数年上昇傾向にあること（5 点満点で 4.29→4.33→4.33→4.48）が読み取れる以外、注目すべきものはない。設問 14 を除くすべての項目で平均値 4.50 を超える一方、「教員は授業時間を有効に利用」する（4.95）だけでなく、「授業への……熱意を感じ」させ（4.96）、「総合的にこの授業を評価できる」（4.93）となれば、もはや「教育の改善」の必要はないということになるからである。

このような授業評価アンケートは、少なくとも記入者が特定できる人数では実施しても意味はなく、どうしても実施したいのであれば、成績評価の開示後に、①どのような点がどういう意味で良かったのか悪かったのか、②どうすればもっと良くなると思うか等を無記名で自由記述したものを教務課に提出させ、そのアンケート集を各教員に配布する方がよいように思われる。